

経営比較分析表（令和4年度決算）

神奈川県 横浜市

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
-	-	1	-
その他発電所数	料金契約終了年月日	FIT・FIP適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和4年3月31日 横浜市風力発電所	令和9年8月31日 横浜市風力発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
株式会社UPDATER、 東京電力パワーグリッド株式会社	75.4		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H30	R01	R02	R03	R04
水力発電	-	-	-	-	-
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	2,922	2,275	2,284	2,029	2,234
太陽光発電	-	-	-	-	-
合計	2,922	2,275	2,284	2,029	2,234

	FIT・FIP以外	FIT・FIP	合計
年間電灯電力量収入（千円）	982	39,163	40,145

剰余金の使途について（具体的な使用実績事業を記入してください）	
基金への積立の有無…無	
一般会計への繰出しの有無…無	
その他の有無…有	
目的：設備の老朽化対応等に使用予定	116,358千円

分析欄

1. 経営の状況について

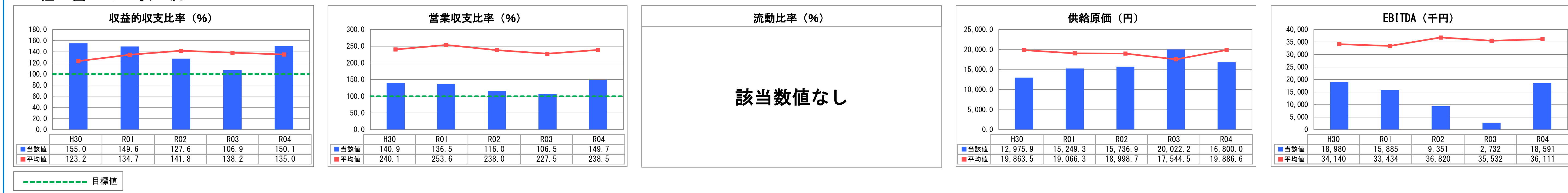
本施設は、都市立地型の風力発電所として、再生可能エネルギー普及啓発のシンボリック事業として運営をしています。また、風力発電という性質上、収益の安定性が風況等の環境的要因により左右されます。

令和4年度は、比較的稼働状況が良く、設備の不具合も少なかったことから、定期的な点検の実施や、主要部品の交換等を適宜行うことで、概ね安定した事業運営ができていたと考えられます。

また、近年、売電単価が下落傾向にあったことなどから、安定的に収入を確保するため、令和4年度からFIT制度を適用して売電を行っており、収益的収支比率など経営の状況を表す指標が改善しました。

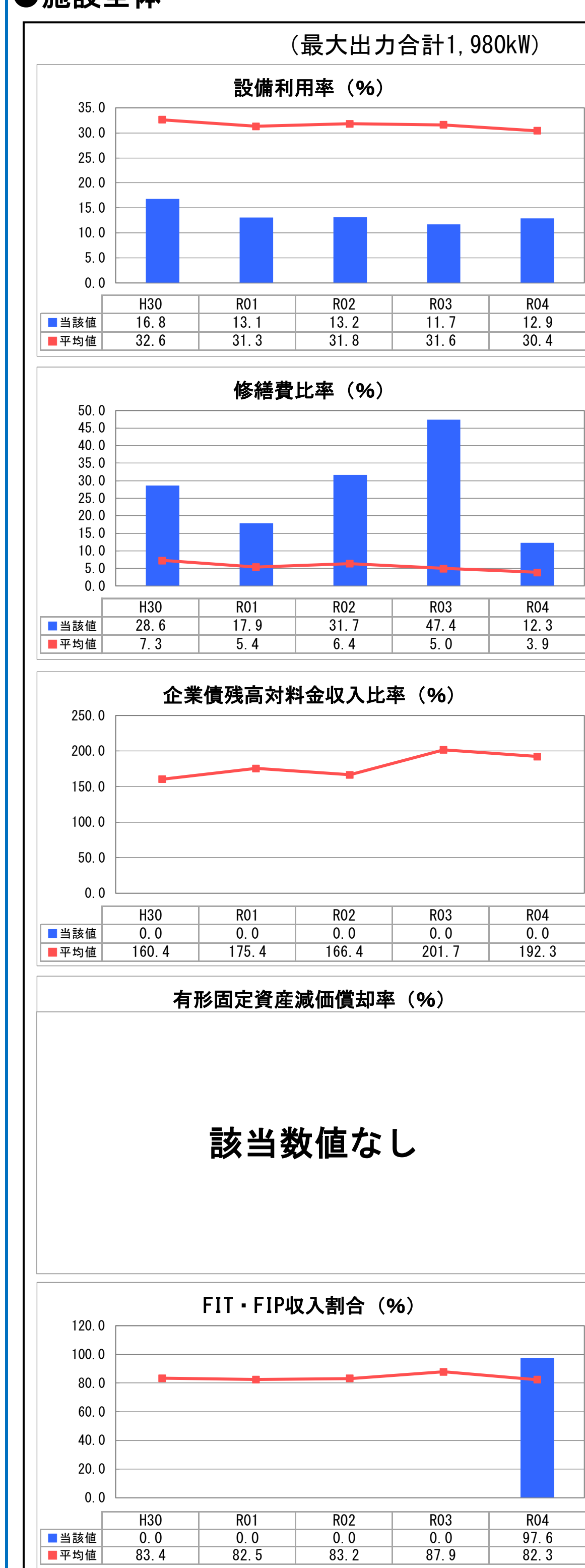
なお、建設に伴う費用に関して、平成28年度に市債の一括償還を行い、平成29年度に一般会計からの貸付金の償還を行ったことにより建設費の償還は完了しており、さらに剰余金も発生するなど、引き続き健全な事業運営を行っています。

1. 経営の状況

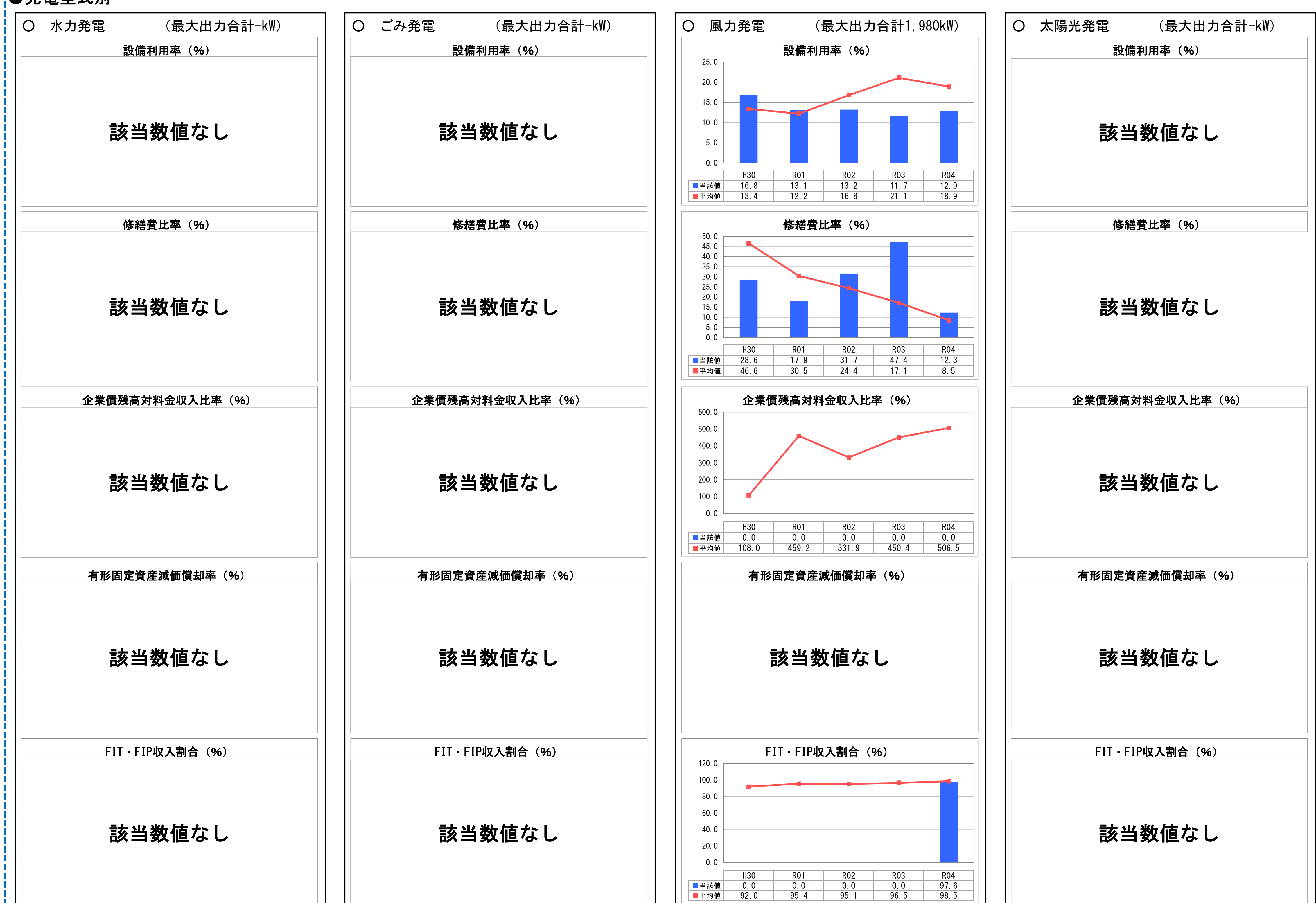


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



2. 経営のリスクについて

・設備利用率について、本施設は都市立地型の発電所であり、平均的な風力発電所よりも風況には恵まれていないことから、近年は平均値よりも低めで推移しています。令和4年度については、比較的稼働状況が良く設備の不具合も少なかったことから、前年を上回る数値となっており、安定的に稼働しています。

・修繕費比率について、令和4年度は、ブレードセクターの交換を行った前年度に比べて大きな修繕がなかったことから、数値が大幅に改善しました。機器の老朽化等もふまえ、引き続き計画的に維持管理を行ってまいります。

・企業債残高対料金収入比率について、平成28年度に風力発電所建設に伴う市債を一括償還したため、それ以降は0%となっています。

・FIT収入割合について、令和3年度までは、再生可能エネルギー電気相当量のうち環境付加価値分を全てグリーン電力証書取引により使用していたため0%となっていますが、令和4年4月発電分からFIT制度を適用して売電を行っているため、大幅に上昇しました。

全体総括

都市立地型の風力発電所として、協賛企業との連携により、経営状況は概ね健全な状態であると考えられます。

今後も、適正に維持管理を行い安定的な経営を進めるとともに、再生可能エネルギーの普及啓発のため、事業運営に取り組んでまいります。

（令和6年度に会計運営計画を改定予定）

※ 平成30年度から令和4年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債残高対料金収入比率、FIT・FIP収入割合については、令和4年度の団体数を基に平均値を算出しています。